

計画の名称	金沢市における下水道施設の再構築及び防災・安全対策の推進									
計画の期間	平成30年度～令和4年度(5年間)			交付対象	金沢市					
計画の目標	施設老朽化の効率的な解消および防災・減災機能の向上を図り、市民への安心・快適な生活環境の提供を持続する。									
計画の成果目標(定量的指標)	① 重要な幹線管渠の耐震化率を49%(H30当初)から63%(R4末)へ向上させる。 ② 下水道施設(処理場・ポンプ場)の耐震化率を71%(H30当初)から88%(R4末)へ向上させる。 ③ 防災まちづくり推進地区「金石西地区」における防災道路の完成を目指す。									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考			
				当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)				
① 重要な幹線管渠の耐震化率(重要幹線管渠の耐震化実施済延長(km)/重要幹線管渠延長(km)×100)				49%	57%	63%				
② 下水道施設(処理場・ポンプ場)の耐震化率(耐震化実施済施設数(箇所)/耐震化が必要な施設数(箇所)×100)				71%	83%	88%				
③ 防災道路整備率(道路整備延長(m)/防災道路全体延長(m)×100)				23%	47%	100%				
全体事業費	合計 (A+B+C)	13,891.0	A	13,875.0	B	-	C	16.0	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.11%
事後評価										
○事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期										
事後評価(中間評価)の実施体制				事後評価の実施時期						
金沢市社会資本総合整備計画評価委員会において評価を実施				計画期間終了後 公表の方法 金沢市ホームページで公開						
1. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況										
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		主要な下水道管渠における耐震化率の向上により、災害時の緊急輸送道路の交通確保及び拠点避難所からの流下機能の確保に寄与した。 処理場・ポンプ場の耐震化を推進することにより耐震化率を向上することができ、地震時の防災・減災に寄与した。 防災広場及び耐震型防火水槽の整備が完了するとともに、防災道路の整備が進捗することにより防災機能の確保に寄与した。								
II 定量的指標の達成状況		指標①(重要な幹線管渠の耐震化率)	最終目標値	63%	目標値と実績値に差が出た要因	平成30年度に第3期総合地震対策計画を策定し、耐震事業を加速化。国補正を積極的に活用し、一部前倒しを行いながら耐震化を推進し、目標以上に進捗することができた。				
			最終実績値	70%						
		指標②(下水道施設(処理場・ポンプ場)の耐震化率)	最終目標値	88%	目標値と実績値に差が出た要因	耐震化対象とする4施設のうち処理場の2施設において、別途修繕が必要な箇所があることが判明し、工事スケジュールを見直した結果、整備計画期間内(令和4年度末)に完成しなかったため。				
			最終実績値	79%						
		指標③(防災道路整備率)	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	防災道路を整備するための拡幅用地の取得について、地権者との交渉に時間を要し、防災道路整備率は45%にとどまっているが、順次用地取得が進んでおり、令和9年度には事業完了の見込みである。				
			最終実績値	45%						
			最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因					
			最終実績値							
			最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因					
			最終実績値							
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)		下水道管渠及び処理場・ポンプ場(機械・電気設備)においてストックマネジメント計画に基づき、計画的な点検・改築を行い適正な施設機能を確保することができた。 雨水貯留施設、雨水浸透施設の整備の推進により、雨水流出抑制及び地下水涵養が図られた。								
2. 特記事項(今後の方針等)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な下水道管渠の耐震化を進め、災害時の緊急輸送道路の通行確保、拠点避難所からの流下機能を確保し、防災・減災対策を推進する。</li> <li>・下水道処理施設については、地震時においても処理場の「揚水」「沈殿」「消毒」の機能確保が図られるよう、耐震化事業を推進する。</li> <li>・防災道路の全線完成に向け、防災まちづくりを推進する。</li> <li>・第2期ストックマネジメント計画に基づき、計画的な点検・改築を行い核施設機能を確保しつつ事業コストの平準化・効率化を推進する。</li> <li>・雨水貯留施設、雨水浸透施設の整備など雨水流出抑制対策をさらに推進する。</li> </ul>										